

転帰指標およびサービス利用者 ウェルネスプラン使用時の利用 者経験

「自分の病気について洞察を
得る機会となりました」

「自分の感情をモニターする
一助となったし、再発防止にも役
立ちました」

「自分自身のケアにもっと積
極的に関与できる機会があること
に気づかせてくれました」

「調子が悪い日があってもい
いことや、これからずっとそんな
ふうを感じ続けるわけじゃないっ
てことを教えてくれました」

- NSW州の公共メンタルヘルスサービスが自己回答型尺度としてK10テストを採用するにあたっては、サービス利用者が非常に大きな役割を果たしてくれました。
- サービス利用者はサービス利用者ウェルネスプランの開発に貢献してくれました。
- サービス利用者はAPQ6の開発にも大きな役割を果たしてくれました。
- NSW州保健省ではNSWAGを介したこうしたイニシアチブにおいて今後もサービス利用者に関与を依頼するつもりです。

どこで詳細情報が 得られますか。

転帰指標やサービス利用者ウェルネスプランについて疑問や懸念がある場合や、詳細情報を希望される場合には、以下にご相談ください。

- 担当のメンタルヘルス臨床医
- サービス利用経験のあるコンサルタント/ワーカー
- 転帰指標に関する詳細は www.amhocn.org をご覧ください

連絡先詳細



Health

回復や転帰って、 誰のことですか？

メンタルヘルスにおける
サービス利用者の自己評価

Japanese



Health

回復ビジョンステートメント

病気からの回復には、エンパワーメントや楽観、自分自身のケアへの積極的な関与が必要です。

転帰指標とは？

- 転帰指標はメンタルヘルスケアの成果の測定を試みる全国的イニシアチブの一環として導入されました。
- 様々な指標を用いることで、担当臨床医と共にあなた自身が、長い目で見た回復への地図を描くことができます。
- 収集される情報は、ケアプラン作成時の指針として、もしくは経過を調べるために使用できます。
- また、この情報はサービス向上を計画する際に近隣のサービス機関が利用する場合があります。
- 転帰指標の一部には、サービス利用者により自己評価をする機会が与えられた上で、臨床医が回答するものもあります。NSW州では、これはK10 (Kessler 10)およびAPQ6 (Activity & Participation Questionnaire)です。

あなたへの恩恵

- 転帰指標情報により、サービス機関があなたにより良いケアを提供できるようになります。
- 転帰指標情報により、ご自身のケアや回復にあなた自身が関与することが容易になります。

今後起こりうることは？

- 担当のメンタルヘルス臨床医が査定時にK10に回答する機会を提供する場合があります。K10には設問が10項目あり、最近あなたがどのように感じているか探るものです。
- また、コミュニティや職場、学習活動への関与状況に関して質問するAPQ6にも回答するよう促される場合もあります。
- これらの指標は自分自身で回答できますが、補助が必要であれば、担当臨床医や他の職員の助けを借りることも可能です。
- 担当臨床医があなたにより適したケアプランを作成するために回答内容についてあなたの話をきく場合もあります。
- あなたの経過を確認するために、ケア期間中にK10またはAPQ6に再度回答するように要請される場合もあります。
- 読むのが困難であれば、担当臨床医が指標への回答を補助してくれます。
- 英語を読むことが難しくければ、K10は他の言語でも用意されています。
- 英語を話すことが難しくければ、指標に回答するために通訳者が用意される場合もあります。どの言語が希望か、担当臨床医にお知らせください。
- 指標への回答は任意ですから、拒否することもできます。

サービス利用者 ウェルネスプランとは？

転帰指標のほかに**サービス利用者ウェルネスプラン**によってもご自身のケアに積極的に関与することができます。

サービス利用者ウェルネスプランはNSW州メンタルヘルスサービス利用者が考案したものです。ケアを受けている間に担当臨床医がこの**プラン**の作成を打診する場合があります。サービス利用者はいずれも、担当臨床医や指定介護人と共同で**プラン**を作成することが推奨されています。この**プラン**の意図は特に症状の管理、再発の防止、危機管理計画において、自分自身のケアに自分で関与していくことを補助することです。これは回復を促進するだけでなく、自分自身の回復を支えるために自分がなすべきことするきっかけ、またはなすべきことのリマインダーとして機能します。

- このプランにより自分のケアに対して自分の意見を述べる機会が与えられます。
- 自分にとって何が最も有効であったかをご利用のサービス機関に知らせる良い機会にもなります。
- サービス機関と共同でできることを見極める一助となります。
- あなた自身のケアや回復に何が重要かを見極めることにも役立ちます。
- ケアを受けている間に**プラン**が最新の状態であるようにプランを見直す機会も提供されます。